

## 論 文 要 旨

博士課程 Ⓜ・乙	第 417号	氏 名	加藤 明彦
<p>[論文題名]</p> <p>Relationship between enlargement of the lateral ventricle and periventricular leukomalacia in infants.</p> <p>乳児における脳室周囲白質軟化症と側脳室の拡大との関連について</p> <p>Journal of Obstetrics and Gynaecology Research Vol. 36, No. 5: 984-990, October 2010</p> <p>[要 旨]</p> <p>背景：脳室周囲白質軟化症 (periventricular leukomalacia ; 以下 PVL) は新生児の神経学的障害の原因として重要である。最近頭部超音波検査では PVL は認められず、頭部 MRI で認められる症例があることが判明してきている。</p> <p>目的：頭部超音波検査では PVL は認められなかったが、頭部 MRI では PVL が認められた症例について、側脳室の拡大から PVL を疑うことが出来るかどうか検討した。</p> <p>方法：当院新生児センターに入院した23名の新生児を対象とし、これを3群に分けた。PVLが超音波検査では認められなかったが、頭部MRI検査では認められた6症例を超音波検査陰性群 (在胎32.7±1.1週、出生体重1680±328g) とし、超音波検査、頭部MRI検査両方でPVLの認められた6症例 (在胎31.9±1.4週、出生体重1707±241g) を超音波検査陽性群とし、頭部超音波検査、頭部MRI検査両方ともPVLの認められなかった11症例 (在胎32.8±2.0週、出生体重1546±352g) を対照群とした。側脳室と頭囲の比は側脳室面積 (cm<sup>2</sup>) / 頭囲 (cm) × 100として計算した。側脳室面積と頭囲の比のカットオフ値を求めるためROC曲線を描き、AUC (area under the curve) 及びAUCの95%信頼区間及び感度、特異度を求めた。</p> <p>結果：在胎週数、出生体重、超音波検査を施行した生後日数、修正在胎週数、体重、頭囲には 3 群間に有意差は認められなかった。側脳室面積と頭囲の比は対照群で中央値 0.38, 範囲 0.1-0.59、超音波検査陰性群で中央値 0.79, 範囲は 0.09-0.97、超音波検査陽性群で中央値 0.96, 範囲は 0.62-1.8であった。超音波検査陰性群、陽性群とも対照群に比べ、側脳室面積と頭囲の比は有意に高値であった。ROC 曲線では AUC 0.8466, 95%信頼区間 0.7163-0.9769 で、カットオフ値を 0.6 と設定した場合、感度 79.17%、特異度 100%であった。</p> <p>考察：頭部超音波検査で従来の所見に加えて側脳室の拡大が認められた場合 PVL を強く疑い、精査すべきであることが判明した。</p>			
備考 論文要旨は1, 000字程度にまとめるものとする。			